

J T U

埼玉高教組

ニュース

NO. 667

発行 埼玉高等学校教職員組合
〒330-0062
さいたま市浦和区仲町3-13-10
ヤギシタビル4F



くじら

教育復興に向けて支援の輪を広げよう!

TEL 048-823-4071

FAX 048-823-4072

Eメール saikojtu@maple.ocn.ne.jp

初任者の「車通勤はダメ」に根拠はありますか？

学校によっては「初任者は車通勤ダメ」と言っている校長がいるらしい。条件付採用期間内で交通事故を起こしたら「本採用」にならない可能性があると言わんばかりの圧力を感じます。県教委はOKだけど、現場の校長にダメと言われたら初任者はどう思いますか？ 寄せられた幾つかの声を紹介しながら、この問題について考えてみます。

◆私は校長にそう言われました

採用されてからの1年間は仮採用の期間なので、車での通勤を控えるように言われました。1年間はなるべく自転車で通うようにしていましたが、運動部顧問として荷物の運搬等があったので、週末は車で通勤していました。顧問も1人に近い状態だったので車で通勤できないことに関しては非常に困りました。正直そのくらい大丈夫ではないかと思っていましたが、何かあったときのことを考え、なるべく自転車で通勤しました。部活の運搬と雨天時は車で通勤できないとかなり困りました。

◆勤務に関してストレスを与えるな！

私は臨任の時から車で通勤をしていたので、特に公共交通機関や徒歩、自転車を使ってくるようにとは言われておりませんが、他の初任者の方は言われていたようです。私が思うのは、臨任の時から車通勤でしたので、なぜ非常勤や臨任の時は車通勤を許されていたのに、初任者になった瞬間に車通勤がダメになるのかがよく分からないなあとということでした。勤務に関して、働く側がストレスなく通勤することも大切なのではないかと思います。公共交通機関を使う際に、時間を気にすることもストレスだと思います。

◆車通勤ダメは不祥事防止ですか？

管理職から指示がありました。初任の先生の生活環境によって柔軟に対応されました。本校は駅から近いので公共交通機関を使っている先生方が多いです。大学卒業新卒で初任で自家用車通勤と

なると、免許取りたて&過労による不注意などで事故に繋がり、不祥事につながるという考えがあったから??など、そういう認識なのでしょうか?どちらにせよ、車の方が通勤楽&時間短縮である方にとっては苦痛以外の何ものでもないと思うので、柔軟に対応か、選択肢がある必要があると感じます

◆校長が代わったらスルーでした！

初任のご挨拶に行った際にそんなことを校長から言われたような気もしますが、4月に赴任してみたら校長変わってました。新しい校長に確認したら、『そんなことはない』と言われ、堂々と車通勤しました。初任者がダメな理由は、まだ試用期間だからですかね?だとしても、だから車じゃダメという論理が繋がらなすぎて意味不明です。『派遣の人はエレベーター使っちゃダメ!』とかいうブラック企業と何ら変わりません。そもそも自分が初任の時に車通勤したかった理由は部活の荷物運びにあるので、出張時に車禁止とか尚のことナンセンスです。そんな寝言を言う管理職(あるいは教育委員会)は、代わりに部活の荷物運んでくれるんですかね?

◆そもそも県教委はダメと言っていない

皆さん、ご立腹ですが、当然です。県教委はOKしているのに校長がダメとする勝手な「指示」ですが、初任者としては反論しにくい。でもこうした労働条件(労働条件の不利益変更は労基法違反)に関することは他にもありませんか? 私たちは県教委と直接、交渉して改善することをお約束します。

原子力の平和利用など「絵に描いた餅」である —JCO臨界事故24周年集会に参加して—

9月30日、24年前に大量の放射能を浴びて社員2名が死亡したJCO臨界事故が発生した日に東海村で集会が行われた。学習講演の中で原子力資料情報室共同代表の伴さんは「繰り返す原発事故」と題して、「老朽原発再稼働・運転延長は次の大事故への序章」と断言した。

◆事故は繰り返す

- ①1974年原子力船「むつ」の放射能漏れ
- ②1989年福島第二原発3号炉循環ポンプ脱落事故
- ③1991年美浜原発蒸気発生器破断事故
- ④1995年「もんじゅ」のナトリウム漏洩火災事故
- ⑤1997年動燃再処理工場の火災爆発事故
- ⑥1999年敦賀原発2号炉配管破断事故
- ⑦1999年JCO臨界死傷事故
- ⑧2001年浜岡原発1号炉配管水素爆発破断事故
- ⑨2004年美浜原発3号炉配管破断11人死傷事故
- ⑩2011年福島第一原発メルトダウン爆発事故

これらの事故の原因は、「指摘あるいは発見されていたが対策を取らなかったケース」(①⑥⑨⑩)、「点検漏れあるいは安全評価漏れ」(⑤⑨)、「施工ミスや耕造欠陥」(②③④⑧)、「運転優先・経済性を優先」(①～⑩)と分類されている。事故は複数の要因が重なって起こるが、背景には運転や経済性を重視する姿勢が必ずある。そして問題は、その姿勢が現

在も変わっていないことだ。

◆岸田総理による原発回帰政策

福島第一原発の事故を受けてドイツは脱原発に舵を切り、今年度で完了した。2035年までに再生可能エネルギーのみによる電力供給を目指すという。

一方、歴史に残るような重大事故を起こし、「原子力安全神話」が崩壊した日本の岸田総理は、原発の運転期間の60年超への延長を盛り込んだGX電源法を成立させた、既存の原発を可能な限り活用し、かつ、新設までも容認した。

福島第一原発の事故後の処理は何一つ計画通りに進んでいない。廃炉には何十年の時間がかかるのか、想像も付かないにも関わらず、事故を忘れたかのように岸田総理は突っ走った。世界情勢を勝手に敵に回しているようなものである。

◆無くすことが唯一の正しい道

紹介した①から⑩の事故は技術の過信、運転継続ありきの国の姿勢が生み出した災害である。これらの姿勢が全く変わっていないのに、運転期間の延長などもってのほかである。なぜドイツのような方向性が取れないのか、世界に対してあまりにも無責任な姿勢をいつまで続けるのか。

原子力の平和利用は「絵に描いた餅」である。原発に対する岸田総理のやり方は明らかに間違っている。

10月22日 日曜日は県教研へ
国立女性教育会館（又エック）にて10時より開催

ある日の共育共生部

主に特別支援学校の教職員からなら専門部、共育共生部は毎月定例会議を行っているが、先日の会議で挙げられた各学校の課題をお伝えしたい。

★教員の未配置未補充

年度当初から普通高校含め取り沙汰されている問題がこれである。途中から欠員が出ることがわかっていたら代替者が4月から勤務できるという県の制度を利用して引き継ぎも有効にできた学校もあるが、多くが9月現在で欠員が埋まらない状態である。校

長は、皆さんの知り合いに声かけを、と必ず言うが、校長始め管理職が積極的にクラスへ応援に入る学校もあるようだ。県教委総体として早急に何とかすべきだろう。欠員のために本務者が無理をし病休になっているケースも出ているのである。

★コロナ、インフルエンザ

これは各学校で状況に違いがあり、全くない学校もあれば、学級閉鎖などが複数出ている学校もある。時期もあるようだ。いずれにしても、まだまだ通常通りには行かない状況で、職員への負担が増えることのないようにする必要がある。コロナ前の勤務状況に戻ってはいけないのだ。